

第196回暮らしのSDGs学習会

会議年月日	R 6年 3月 8日	時 間	13:30～15:00	場 所	生涯学習センター
-------	------------	-----	-------------	-----	----------

出席者	筒井、吉永、横田、難波、平手、大塚紀、新美、増永（記）
-----	-----------------------------

議 題

第196回暮らしのSDGs学習会を開催しました。

1. 日 時 2024年3月8日 13:30～15:00

2. 会 場 流山市生涯学習センター 大会議室

3. テーマ 気候変動に具体的な対策、どこまで進んでいる？
初の評価を実施した「COP28」の結果

4, 内容 COP28最大の成果は1.5°C目標に向けたエネルギーに関する合意ができた。

第1回グローバル・ストックテイクの成果文書が出され、各国はそれに基づき2025年までに次の目標（2035年目標）を立てることです。

目標に向けた残された時間はありません。日本の課題は今回の合意を踏まえ世界で目標達成のために2035年目標を策定し、達成に向けて気候変動対策をさらに加速させことで、それには社会の変革が不可欠です。とまとめられた。

*パリ協定の目標達成に向けて、世界全体の進捗状況を評価する「グローバル・ストックテイク」が初めて実施された。これを含めCOP28ではような成果があったか、また日本がどのような交渉や発言をしたかを紹介された。

1.パリ協定における「グローバル・ストックテイク」の構成及び位置づけについて

2.パリ協定と京都議定書の違い。京都では目標達成。パリは目標の策定・提出のみ

3.日本はパリ協定前に2013年比-26%の水準。その後2020年に確実に達成すること、さらに中長期で温室効果ガスの更なる削減努力を追求する。

2021年には「2050年ネットゼロ宣言」＝「カーボンニュートラル」

4.米国、英国、EU、韓国が「2050年ネットゼロ」宣言。中国は2060年

5.「グローバル・ストックテイク」の成果文書の内容は関し、1.5°C目標達成に必要な削減経路を見ると実現可能が難しく思い、「1.5°C目標は死んでいる」。

6.日本の2021年度温室効果ガス排出・吸収量の概要について、グラフで説明。

7.電気自動車の需要の増加した影響について

5, 講師 筒井 義憲 (OBN会員)

次回の予定

・次回は 4月12日（金）13:30～

・場 所 流山市生涯学習センター

・テーマ 流山市の生物多様化戦略について

・講 師

・開催案内・お知らせは学習テーマが決まり次第、会員の皆様へはメールで、
会員外の方々には、当OBNホームページでご案内します。

以上